

過去問プラス PLUS 資料解釈 No. 3

国家専門職 2015 構成比のグラフ

難易度 ★★★★★

重要度 ★★★★★



参考項目 資料解釈ザ・ベスト プラス #3

問題

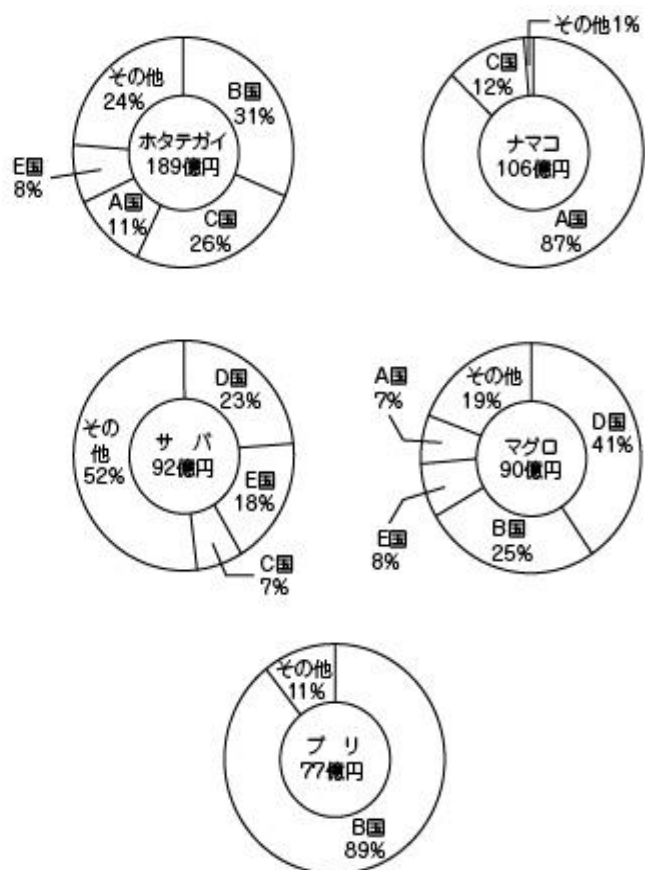
図は、ある国の水産物の輸出金額に関して、輸出先国の国別内訳（上位 5 か国（A～E 国））及び上位 5 品目の国別内訳を表したものである。これらから確実にいえるのはどれか。

ただし、輸出水産物（上位 5 品目）の国別内訳については、A～E 国のうち、輸出金額が 1%以下の国は、「その他」に含まれている。

水産物輸出金額の国別内訳（1,700 億円）



輸出水産物（上位 5 品目）の国別内訳



- 水産物輸出金額の上位 5 品目中、B 国への輸出金額が多い品目は、多い順にブリ、ホタテガイ、マグロである。
- ナマコとブリを除くと、C 国への水産物輸出金額は、A 国や B 国へのそれよりも多い。
- サバ、マグロ、ブリの 3 品目合計で見ると、水産物輸出金額に占める D 国の割合は、約 3 割である。

過去問プラス 資料解釈 No. 3

4. E国への水産物輸出金額に占めるホタテガイ、ナマコ、サバ、マグロ、ブリの5品目の割合は、約5割である。
5. 水産物輸出金額の上位5品目中、上位2か国合計の輸出金額をみると、一番多い品目から順に、ナマコ、ブリ、マグロである。

解説

肢1 B国への輸出額は、ブリが77億円の89%で、これは70億円近くあります。ホタテガイは189億円の31%で、50~60億円程度、マグロは90億円の25%で、22.5億円です。

ナマコとサバは、それぞれ106億円、92億円の1%以下ですから、多くても1億円前後なので、多い順に、ブリ、ホタテガイ、マグロとなり、本肢は確実にいえます。

肢2 A国への輸出額は、1,700億円の31%で、これは500億円以上あります。そのうち、ナマコは106億円の87%で、これは100億円に満たないので、ナマコを除いてもA国は400億円以上となります。

一方、C国への輸出額は1,700億円の11%で、これは200億円に足りません。

よって、ナマコを除いても、A国>C国となります。

B国は、ブリを除くと、C国よりちょっと少ないかな。

肢3 サバ、マグロ、ブリの輸出額の合計は、 $92+90+77=259$ (億円) ですから、この3割は70億円を超えます。

D国への輸出額は、サバが92億円の23%で、20億円強、マグロは90億円の41%で36.9億円、ブリは77億円の1%以下ですから、0.77億円以下で、合計しても60億円にも足りません。

よって、約3割とはいえません。

$$259 \times 0.3 = 77.7 \text{ (億円)}$$

肢4 E国への輸出額は、1,700億円の7%で、これは100億円を超えますので、その5割は50億円を超えます。

そのうち、ホタテガイは189億円の8%で、これは15億円程度、サバは92億円の18%で、17億円程度、マグロは90億円の8%で7.2

億円、その他はいずれも1%以下で、多くても1億円前後ですから、5品目で40億円程度にしかありません。

よって、約5割とはいえません。

$$1,700 \times 0.07 = 119 \text{ (億円)}$$

肢5 マグロの上位2か国の構成比の合計は $41+25=66$ (%) ですから、輸出金額は90億円の66%で約60億円です。

一方、ホタテガイのそれは、 $31+26=57$ (%) で、輸出金額は189億円の57%で、これは100億円を超



過去問プラス^{PLUS} 資料解釈 No. 3

えます。

よって、マグロ<ホタテガイとなり、ナマコ、ブリ、マグロの順ではありません。

正解 1

